

発達障害児のための家族支援  
武豊町提案型協働事業《第2期》

特定非営利活動法人PAKA PAKA



# 武豊町からみる地域課題

発達障がいの可能性のある児童数  
発達障がいの出生率  
【対象人口：2,215人（幼児期）×6.5%】

**144名**

児童発達支援事業所  
（あおぞら園等）に通う児童

**19名**

発達支援が受けられないまま  
保育園等に通う児童 **125名**

**この子と家族をどう支えるか？**

# 第1期では

## 個別育ち支援

コロナ禍のため  
規模を縮小して

場所：保健センターで月2回

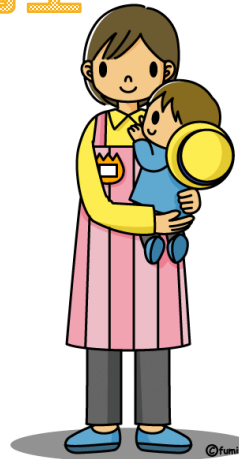
10:00～12:00

対象：幼児期の児童

利用回数：1回1時間 3回まで



保育士



家族



発達障がい児

家庭の安定

人材育成

中堅保育士向け研修

家族支援

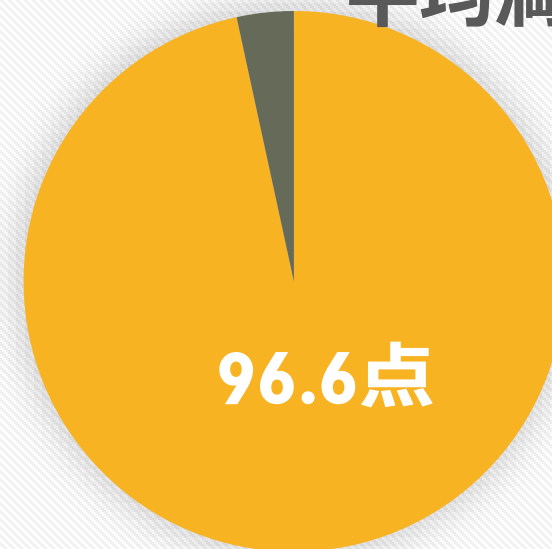
メンターが同席した  
ペアレント・プログラム  
(子育てをポジティブに変える学び)

包括的に支える仕組み

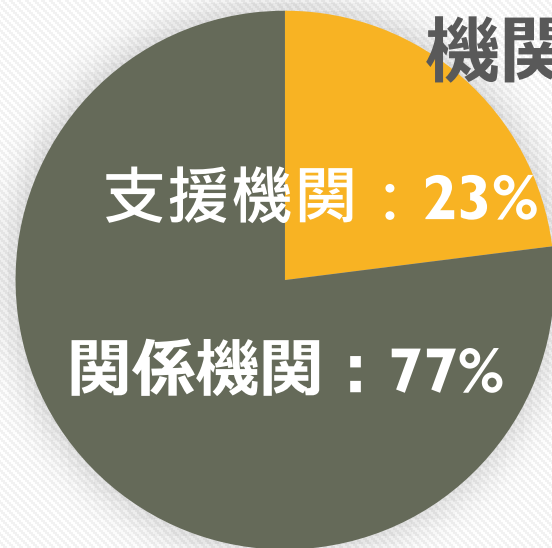
# 数字で見る：個別育ち教室・家族支援

平均満足度点数

参加割合



機関と繋がった割合



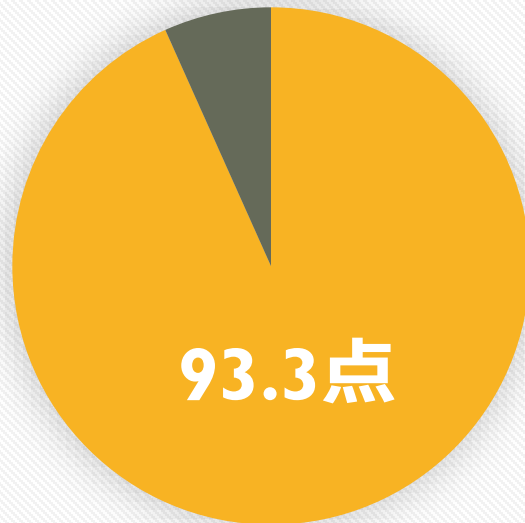
待機者: 3名

ペアプロ: 参加者 4名

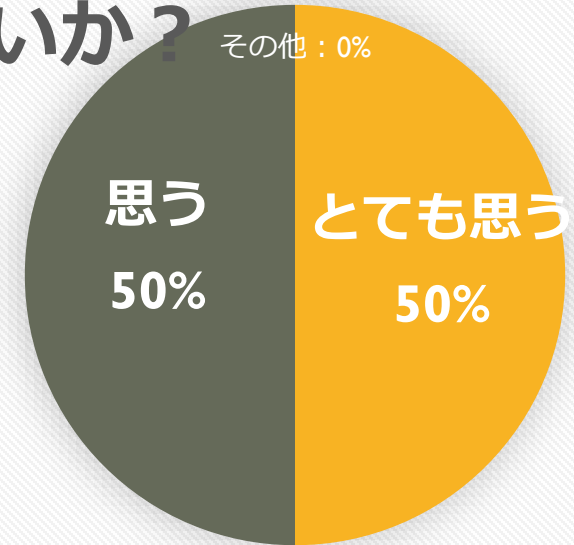
# 数字で見る：保育士向け研修

8年目の  
中堅保育士6名  
計3回の連続研修

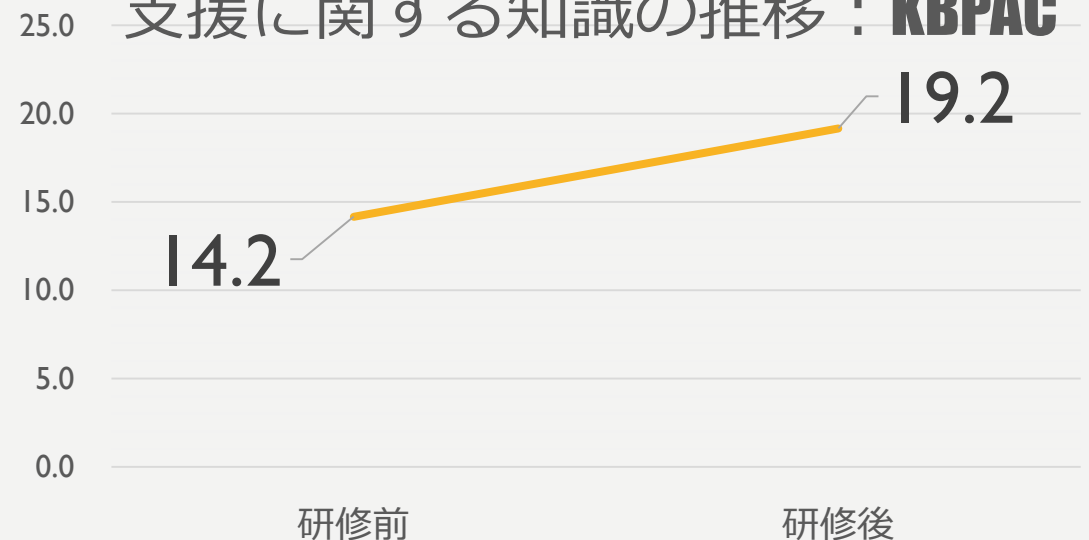
平均満足度点数



同僚に勧めたいか？



支援に関する知識の推移：KB PAC



# 見えてきた課題



保護者には正しい子育て方法と情報を

- 子育て方法が分からない=誰も教えてくれないので
- 支援が本当に必要な子に届いておらず、子・家族の将来に関わる



支援機関に繋げるにはきっかけが必要

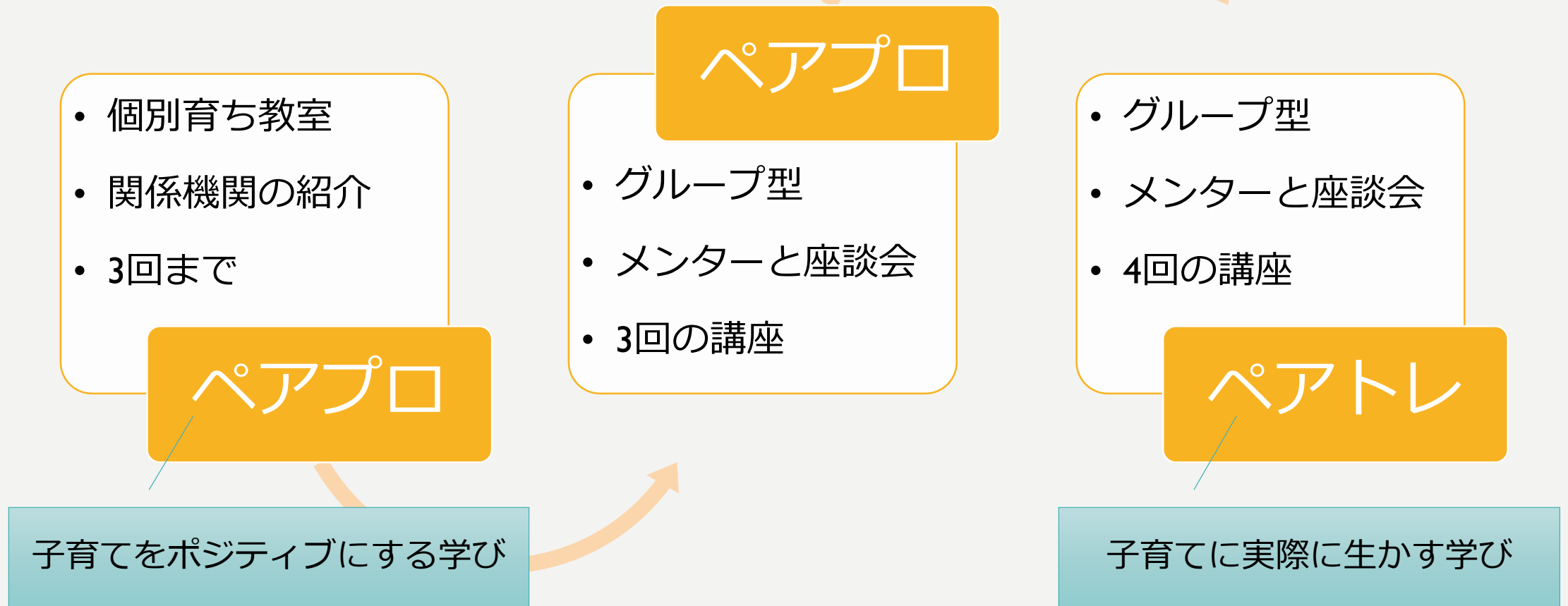
- 既存の相談機関のみではなく、**保護者同士で共感しあう場**が必要
- 保育園等から紹介される連携された仕組み



個の保育士だけでなく、園や町単位での支援のネットワーク

- クラスや園が必要としないと、支援方法が根付かない
- 繰り返し研修で町単位で発達支援の文化を根付かせる

# 第2期の予定：家族支援に焦点を



保護者がStep upできる学びの仕組み

# 国の施策



- ・ 第2期障害児福祉計画（令和3年度から策定）より

ペアレント・プログラム、ペアレント・トレーニング等の研修の実施について、必要な実施件数の見込みが設定されることに。

## （1）発達障がいのある方に対する支援

発達障がいのある方やその家族等に対して支援するため、次の取組を実施します。

■図表 4-27 発達障がいのある方に対する支援の見込み

取組事項	見込み		
	令和3年度	令和4年度	令和5年度
ペアレントトレーニングの受講者数	13人	13人	13人
ペアレントプログラムの受講者数	3人	3人	3人
ペアレントメンターの人数	0人	0人	0人
ピアサポートの活動への参加人数	6人（延）	6人（延）	6人（延）

## 武豊町の 第2期障害児福祉計画では



\* 武豊町第2期障害児福祉計画案から抜粋

今後は行政と関係機関の本気度が試されることに